

情報処理学会全国大会論文サンプル

静大太郎[†] 静大二郎[†] 名大花子[‡]

[†] 静岡大学情報学部 [‡] 名古屋大学工学部

1 はじめに

このドキュメントは、アスキー版日本語 L^AT_EX 2_ε [1][2] と情報処理学会全国大会論文のための ip_sjsz パッケージを使って論文を作成するためのサンプルです。ip_sjsz.sty は 1999 年秋の全国大会の書式に基づいて作成されていますが、今後、情報処理学会の規定する書式の変更によって、このパッケージは予告なく変更されます。

2 所属等の書き方

サンプルを見れば分かると思いますが、ip_sjsz パッケージには jarticle クラスで提供されている \title や \author に加えて、\etitle、\eauthor、\affiliation、\eaffiliation、\email が追加されています。それぞれ、英文タイトル、英文著者名、和文所属、英文所属、メールアドレスを指定するコマンドです。これらの情報は \maketitle および \makeetitle コマンドで出力されます。なお、\makeetitle コマンドは \maketitle コマンドより後に使用してください。

3 図の取り込み

3.1 図のデータ形式

図のデータは EPS で作成するのが良いでしょう。Tgif や Illustrator で作成するのが良いでしょう。Windows の印刷で EPS 出力して作成した EPS ファイルは、サイズ調整がうまくいかないことが多いと感じています。

3.2 図の取り込みの実例

図の取り込みには graphics パッケージによって提供される \includegraphics コマンドを使用します。図 1 では、図をそのままの大きさで取り込んでいます。

A Sample of a IPSJ proceeding

Taro SHIZUDAI[†], Jiro SHIZUDAI[†] and Hanako MEIDAI[‡]

[†]Faculty of Information, Shizuoka University
432-8011, Hamamatsu, Japan

[‡]Dept. of Engineering, Nagoya University
464-8603, Nagoya, Japan

{address1, address2, address3}@cs.inf.shizuoka.ac.jp

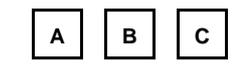


図 1: 図のサンプル (サイズ調整なし)



図 2: 図のサンプル (サイズ調整版)

図 2 では、図の横幅を \columnwidth に合わせています。サイズの調整には graphics パッケージで提供されている \resizebox コマンドを使用しています。

figure 環境での図の配置指定には [h] を使わないようにしてください。図によって文章が分断され、文章が読みにくくなることがあるからです。位置指定には [tb] [t] [b] のいずれかを指定してください。

4 美しい組版をするために

美しい組版をするために以下のことに気をつけましょう。

- 括弧を適切に使用する 日本語文中では全角の () を、英文中では半角の () を使用するときれいに仕上がります。全角と半角の括弧では、括弧の下の位置が異なります。
- 英文と和文の間には半角のスペースをいれる
- 数式は数式モードで書く T_EX の機能を十分に使わないばかりか、フォントの違いによって数式の意味が分かりにくくなってしまいます。数式モード中のフォントの使い方にも気をつけてください。
- 全角スペースを使った位置調整は行わない 折角の

表 1: おまけコマンド

コマンド	機能
<code>\Hline</code>	この表の一番上の罫線のように、太い罫線を描く。
<code>\DAG</code>	上付のダガー (†)。所属等の区分に使用。
<code>\DDAG</code>	上付のダブルダガー (‡)。所属等の区分に使用。
<code>\slashbrf{}</code>	スラッシュ (/) でも改行できるようにする。URL を参考文献に使用するときには重宝する。このドキュメントでも参考文献 [4] のところで使用している。

TeX の高度な組版機能が発揮できません。スペース調整は TeX の機能をうまく使って行うようにしましょう。参考文献に挙げた [1] など、一冊は手元に L^AT_EX 2_ε 関係の本を用意しておくといいでしょう。(個人的には TeX ブック [3] がお勧めだけど、玄人向けだなあ)

5 おまけの機能

ipsjz パッケージには論文を書きやすくするためのおまけ機能があります。表 1 を参照してください。これらの機能は、作者の気分によって予告なく追加されます。

6 まとめ

以上、ipsjz パッケージによる論文の書き方を簡単に紹介しました。このパッケージを使ってばりばり論文を書いてくださることを期待します。なお、私のホームページでも簡単な L^AT_EX の使い方の説明のページ [4] があるので参考にしてください。

参考文献

- [1] 中野: 日本語 L^AT_EX 2_ε ブック, アスキー出版局, 1996
- [2] <http://www.ascii.co.jp/pb/ptex/index.html>
- [3] D. E. Knuth: 改定新版 TeX ブック, アスキー出版局, 1992
- [4] <http://apus.cs.inf.shizuoka.ac.jp/~ishihara/LaTeX/index.html>